

美しくつかしい、日本をのせて。

Cradle

特集
月山、夏嶺をゆく
庄内憧憬
小室等 フォークシンガー

「クレードル」出羽庄内地域文化情報誌

7

2011 July/August
TAKE FREE



FIDEA GROUP

城下町と湊町。 文化がいきづく 出羽庄内。



酒田市／山居倉庫



鶴岡市／致道館

Cradle 7 美しくつかしい、日本をのせて。
「クレードル」出羽庄内地域文化情報誌

2011 July/August
平成23年7月1日発行（毎月奇数月発行）第1巻6号（通巻6号）

発行／Cradle事務局 山形県鶴岡市山王町8-15（株式会社 出羽庄内地域デザイン） 電話0235（64）0888
制作／Cradle編集部 山形県酒田市京田2-59-8「コアット・コンピュータ・ソリューション」 電話0234（41）0012

このたびの東日本大震災により
お亡くなりになられた方に哀悼の意を表しますとともに、
被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

 庄内銀行

ネイティブ庄内弁、
酒肴これに勝るものなし。
方言^{ことば}って実に美味しい。

庄内で出会った 美味しかったもの 小室等

|| 文

この5月に、「鶴岡まちなかキネマ」で我が娘ゆいとのユニット「ラニヤップ」のライブをやらせていただいた。昭和初期の木造絹織物工場が、映画を観る極上の環境に再生されていて羨ましかった。その日はちょうど「バイレーツ・オブ・カリビアン／生命の泉」の初日。3月11日の東日本大震災の後「今すぐにも、日本の被災地へキャプテン・ジャック・スパロウを連れて行きたい」とインタビュに答えていたジョニー・デップの顔を思い浮かべながらのライブだった。打ち上げはカフェ「リデア」という一昨年、ジャズ・ピアニスト谷川賢作さんとライブをやらせていただいた店。あの時も美味しい打ち上げだったが、今回もだった。とりわけ孟宗汁は、これがなんと白ワインに絶妙に合う。ご存知ないかたはぜひお試しを。

美味しかったといえ、親しくしている酒田出身の評論家、佐高信さんに連れられて行った、羽黒山登拝口手向^{てうけ}の宿坊「大進坊」のできごと。宿坊主の早坂真一さんは東京理

科大学時代、慶應大学生だった佐高さんと、東京都北区中里にある「庄内館」で、寝食を共にした苦学生同士の由。庄内館とは庄内出身者のための学生寮。「駒込学生会館」の名称で建物をリニューアルして、今も同じ場所にある。

さて「大進坊」で美味しかったものの。精進料理は言うに及ばずだが、それにも増して美味しかったもの、それは宿坊主、早坂さんの庄内弁。飲むほどに酔うほどにディープになる庄内弁。佐高さん相手に庄内館時代の貧乏蜜カラ話に花が咲いているらしい宿坊主のネイティブ庄内弁、当方にはちんぷんかんぷん。なのに、これが実に耳心地良く、酒肴これに勝るものなし。方言^{ことば}って実に美味しい。

そのとき、僕は幻を見た。目の前にいる宿坊主が、藤沢周平作品『春秋山伏記』の山伏大鷲坊に見えてきたのだ。早坂さんの山伏名は性格そのものである明恒^{みょうこう}。百日行も験している文字通りの修験者である。三百年以上の歴史の中で今も続

いている三山講、遠くは千葉県（大原、茂原、習志野など）から今もやって来る講中の人たちを大進坊殿は厚くもてなしなさる。山伏がお札などを配り巡る地域を霞場^{かすみば}とか檀那^{だんな}と呼ぶそうだが、大進坊殿はもちろん今も祝部^{いわい}として千葉までも檀家巡りをしているという。

腕白で硬軟混合の大鷲坊と大進坊殿、まったく重なり合う。藤沢周平の世界が今目の前にあるのだから、酒はいくらでもすすむ羽黒山の美味しい夜であった。

こむろ・ひとし 東京都生まれのフォークシンガー。グループ「六文銭」を結成、第2回世界音楽祭にて上條恒彦と組んだ「出発の歌」でグランプリを獲得した。「フォアライフレコード」を設立、初代社長を務める。現在は自身のコンサートを中心に、谷川賢作とのセッション、娘のこむろゆいとデュオなどのライブ活動を行っている。また他の分野のミュージシャンとのコラボレーションやイベントプロデュース、テレビ・映画・舞台上に音楽を提供するなど、幅広い分野で活躍している。



300年以上の歴史と伝統に培われた
羽黒地区手向の宿坊「大進坊」。
写真提供=大進坊

冬の間、真っ白な雪に覆われ
神秘的な姿をみせていた月山は
夏が近づくとつれ、青く、力強く
まるで私たちを山頂へ誘うかのように
その印象を変えていきます。
トレッキング、高山植物、夏スキー
出羽三山信仰。毎年、シーズンになると
全国からたくさんの方が訪れる山、月山。
その魅力を、50年以上に渡って
「月山の自然」をテーマに撮り続けてきた
芳賀竹志さんの写真とともに、ご紹介します。

特集写真提供＝芳賀竹志
協力＝いでは文化記念館、羽黒町観光協会
取材・編集＝Cradle編集部

月 Special Edition 山、夏嶺をゆく



多様多彩な自然が、雄大で変化に富んだ景観を描く
磐梯朝日国立公園。その公園内にある月山は
日本百名山にふさわしい美しさを誇っています。

東北地方を代表する山岳公園である磐梯朝日国立公園は、山形県新潟県、福島県にまたがるわが国3番目に大きな国立公園です。公園内には、自然豊かな山々が連なる朝日連峰、飯豊連峰、レクリエーション地として多くの人が訪れる磐梯山、吾妻山、そして庄内が誇る月山を擁する出羽三山など、登山初心者から上級者まで楽しめる多様な山々と多彩な湖沼が織りなす、雄大かつ変化に富んだ美しい景観が広がっています。

雪どけにあわせてさまざまな高山植物を見ることが出来ます。現場を知ることが現場保護官の努めを口実として、昨夏は何度も月山に登りました。古来、八方七口といわれた、現在の登山（登拝）コース「羽黒」「湯殿山」「志津」「本道寺」「岩根沢」「肘折」いずれもそれぞれに特色があり、豊かな生物相と美しい景観を望むことができます。標高の低い地点から雪がとけ始め、高山植物が次々と開花するため、コースによっては春から夏の高山植物の花を一度に観察することができて、少し不思議な気持ちになります。今年度改装する「月山ビジターセンター」では、八方七口の登山ルートを実際に歩いているかのようにシミュレートできる展示を新設予定ですので、お出かけ前に情報収集がてら、ぜひ立ち寄ってみてください。日本百名山にも選ばれている月山。今年は12年に一度の卯歳御縁年でもあり、たくさんの方が来山されるかと思えます。比較的登りやすい山とはいっても、標高は

2000m近くありますので、登山の際は、しっかりとした装備で楽しんでください。

また、美しい高山植物を育む月山の土は、1万年もかけて形成されたことがわかっています。しかし近年、登山ブームによる登山道の荒廃と土壌の流出についても指摘されており、雪田植生を踏み荒らさないなどの配慮が必要です。自然を愛しむ心を持って登れば、月山はその豊かな山ふところきつと迎え入れてくれるでしょう。

自然を愛する心で その豊かな 山ふところへ。

坂本万純さん=文 | 環境省 羽黒自然保護官 |



写真提供=坂本万純

さかもと・ますみ
愛知県生まれ。平成19年11月入省。平成22年より現職。国立公園内の自然環境や動植物の保護のための巡視、利用者が自然にふれあい親しむためのイベントの実施や、安全で快適な施設の管理・運営、飯豊連峰・朝日連峰における登山道整備などその業務は多岐に及ぶ。



Special Edition
月山、夏嶺をゆく

美しい稜線が続く山々、神秘的な溪谷美、
清澄な水で潤う森と湖、
その多様な自然環境が四季を彩る
日本屈指の広さを誇る、磐梯朝日国立公園。
その北の主峰・出羽三山のひとつである
月山はどんな特徴を持つ山なのでしょう。
そこで、その環境の特徴と保全についてと
私たちの歩き方のススメを、
羽黒自然保護官の坂本万純さんに伺いました。



■高山帯の植生は「乾性(風衝地)」「湿性(湿原)」「中性(お花畑)」に大別されます。弥陀ヶ原の湿原を引き立てる水性植物には、水面に風流を写すホソバタミクリや、池塘の雄・オセコウホネなどが見られます。■高山帯下部の高草草原は動物たちの採餌場なのか、カモシカやノウサギが憩う姿も。■厳冬期は着氷の世界。その風衝の地に耐え育つイワウメやツガザクラはいずれも小さな樹木。■お花畑の主役、エーデルワイス(ヒナウスユキソウ)。【参考資料】『月山花讃歌』芳賀竹志・著(嵩書房)／『国立公園図鑑』財団法人国立公園協会・編／『百名山の自然学』梶本卓也・清水長正・編(古今書院)／『雪山の生態学』梶本卓也・大丸裕武・杉田久志・編著(東海大学出版会)／月山アルカディア会議『月山のうた』山形放送・編 ほか



月山の魅力といえばやはり高山植物でしょう。八合目レストハウスの駐車場で車を降りると、標高1400mの弥陀ヶ原湿原が広がり、可憐な花々が出迎えてくれます。木道を左回りで登ってみましょう。足元にはヨツバシオガマやイワイチヨウ、遠く鳥海山、庄内平野、日本海を望み、車を降りてすぐ自然を満喫できます。

登り始めて20分「御田ヶ原参籠所」からは、東に続くルートをとって湿原の奥まで行ってみましょう。尾瀬と月山など限られた山にしかないオゼコウホネが7月中旬頃から見られます。遠く月山の北東斜面を眺めながらのんびりと歩き、頂上ルートとの分岐を過ぎて下りに差しかかると、最後にトキシウの群生が迎えてくれます。淡い色でひっそりと咲くようなその姿は月山の特徴。これが弥陀ヶ原湿原の木道一周、誰でも楽しめる約1時間の散策コースです。

次に、体力があれば頂上に向かってみましょう。弥陀ヶ原湿原の木道から登山ルートに入ると、

散策から一転、登山に変わります。石が露出した道が続くので、足首をしっかり保護するトレッキングシューズと、急な天候の変化に対応できるレインウエア、十分な水分を最低限持参しましょう。伸縮するストックがあると歩行のサポートになります。また、晴れた日は熱中症対策も必要です。月山は1300m付近で森林限界となるため、日陰で休むことができないからです。じわじわと登りが続き、7月中旬までは雪渓を通過します。シラネアオイなど春の花にも出会えるかもしれません。

登山ルートに入り1時間20分、九合目の仏生池小屋に到着です。付近では7月中旬にハクサンフウロやニッコウキスゲが、下旬にはハクサンシャジンが見頃を迎えます。ここでひと休みしたら、いよいよ頂上へ向けて出発です。羽黒ルート最大の難所「行者返し」を越え「もつくら坂」を過ぎれば「大峰」。西側の視界が開け、雄大な月山をここで堪能することができます。そして登山開始から約3時

間、ついに頂上に到着です。6月下旬から7月上旬まではクロユリの季節。頂上にだけ咲くこの花をぜひ見に行ってみてください。

月山は、体力と時間に応じてその日のゴールを決めて登ることができます。高山植物の見頃は花の種類によって7月上旬、中旬、8月と変化し、さらに9月下旬からは紅葉が始まります。1シーズン1回に限らず、足を運ぶたびに新たな魅力に気づくことができます。それが月山の山歩きの楽しみです。

あたりの景色が夏色に輝く季節、山々も輝きにあふれて、私たちをその心地よい風が吹く場所へと誘います。月山は、そんなカジュアルな山歩きにぴったりの場所です。そこで月山を100%楽しむポイントを、9合目「仏生池小屋」を営む工藤家のご長男で、アウトドアショップの代表を務める工藤純平さんに教えていただきました。

山頂まで約3時間、散策も登山も楽しめる花の山。

工藤純平さん=文 | アウトドアショップ TRAIL [トレイル] 代表 |

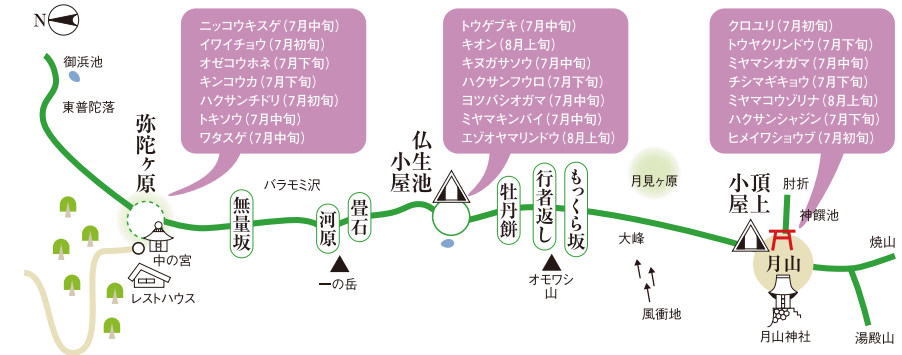


撮影=Cradle編集部



撮影=Cradle編集部

くどう・じゅんべい
昭和52年、月山9合目の仏生池小屋を営む一家に生まれ、幼い頃から山の自然や生活文化に慣れ親しむ。山小屋の直営店として同市美原町に、アウトドアショップ「TRAIL」をオープン(0235-23-0348)。登山やトレッキング、タウンユースなど幅広い用途のウエア類を揃える。



■8合目で車を降りると出迎えてくれるハクサンチドリの群れ。千鳥の飛ぶような愛らしい花姿。■7月1日の開山祭には県内外からの登山客が訪れます。■弥陀ヶ原湿原の池塘にすくくと立つオゼコウホネは氷河期の遺存種。9合目付近では7月上旬からミヤマシオガマ、ウズラバハクサンチドリ、大峰に差しかかるとヒナウスユキソウ(エーデルワイス)、岩礫地ではチシマギキョウがうつむきがちに花を咲かせています。登山ルート沿いでは途中、チシマザサに混ざってシラネアオイに出会えるかも。クロユリの高貴な香りと同じくオリエンタルな姿は神秘的な御山を象徴するかのよう。

仏生池小屋 7月1日～9月20日前後 所要電話予約(メール不可) 大人1泊2食付7800円、素泊まり(寝具付)4000円、上記以外の条件、子ども(小学生以下)も各種設定あり。また、メンバー会員の方は朝食時にコーヒーをサービス。☎090-8783-9555 ※HP「仏生池小屋」で検索



片道およそ3時間の道のりを経てたどりつく月山頂上の山小屋は、山頂のオアシスとして食事や憩いの場を提供しています。オーナーの芳賀竹志さんにお話を伺いました。

庄内平野の水田が青く色づく頃、残雪に覆われた月山では毎年、7月1日の開山式に向けて、急ピッチで準備が進められます。山頂にある頂上小屋もそのひとつ。頂上小屋オーナーの芳賀竹志さんは「開山前に、夏の100日間を頂上小屋で過ごすスタッフの分と、山小屋を訪れるお客さんの分の食料や道具を運んでおくんです。ほかにもお客さんに出す食事用の山菜を採るために山中を駆け回ったり、嵐に耐えられるように小屋を修繕したりと、6月は寝る暇もないくらいです。でも今はヘリコプターで物を運べるから、だいぶ楽になりましたね」と話します。

月山登山の目的は大きくわけて出羽三山信仰と観光レジャーのふたつがあります。特に後者で目立つのが、月山夏スキーと高山植物の鑑賞。近年は花が目的の女性客が多くなりました。「月山の場合は、普通ならもつと標高が高い山じゃないと咲いてないような花に、それほど高くないところで出会えるんです。登山口までの交通アクセス

スもいいし、3時間ほどのなだらかな山道を歩きながら、気軽にたぐさんの高山植物を楽しめるから、人気があるんでしょうね」。月山の高山植物は、6月はじめに開花が始まると8月中旬まで約300種が一週間ごとに次々と咲いていきます。訪れるたびに違う花畑が観られるからと、毎週のように登る人もいます。

月山の頂上から 愛を込めて 雲上の自然讃歌。

芳賀竹志さん | 月山山頂小屋オーナー |

芳賀さんは山小屋経営の合間をぬって、頂上周辺や8合目から頂上までの高山植物ガイドをしたり、撮りためた写真で写真集などを出したりと、さまざまな形で月山の魅力を伝えていきます。その一方で「快適な山小屋」を目標に、20代の頃から日本各地の山小屋視察をしてきました。少しずつ改良を重ねてきた頂上小屋は、現在、日本一の設備を自負するまでになっています。「月山は残雪が多い分、頂上でも水が豊富にある特別な山です。だから皆さん驚きますが、頂上といえども蛇口から水が出る

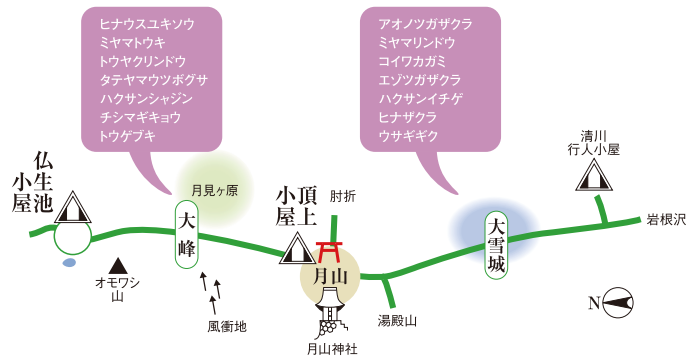
し、水洗トイレやお風呂もあります。安心して宿泊もできるので、頂上にゆつくり泊まって、里ではみられない雲上の景色や満天の星空を眺めたり、朝日を拝んだりしてほしいですね」。はるか昔からあった頂上小屋を、戦後直後に引き継いだ家に生まれ、月山の中で生きてきた芳賀さん。そんな芳賀さんの、月山に対する自然讃歌の気持ちも、おもてなしの原動力となっているのでしょう。この夏は、高原にそよぐ花や雄大な景色、そして山小屋の笑顔に会いに、月山へ行ってみませんか。



撮影=Cradle編集部

はが・たけし
昭和21年、山形県鶴岡市羽黒町生まれ。ライフワークは写真撮影。著書に『月山花讃歌』『月山—花の旅』など数冊あり、芳賀さんの写真を使った映像フィルム「月山花讃歌」は月山ビジターセンターで常時上映中。環境省自然公園指導員。

Special Edition 月山、夏嶺をゆく



夏の月山はレースのカーテンを引いたようにガスがかかることが多いのですが、時折、カーテンを開けたように景色が鮮やかになって佐渡ヶ島まで見渡せる時があります。ただ山の天気は日によって違うので、登った時に壮大な雲海の光景に出会うのか、嵐に遭遇するか、それは皆さんの精進次第です(笑)



■山頂に広がるお花畑。黄色い花がミヤマキンボウゲで、紫色の花がハクサンフウロ。物心ついた頃から夏を山頂で過ごしてきた芳賀さんは、中学生になって写真を撮りはじめ、平成5年に出版した『月山花讃歌』は、月山登山のバイブルとなっています。■頂上小屋、月山神社の彼方に鳥海山の姿が見えます。■頂上小屋は超強風にも耐える頑丈な造りで、料理は月山周辺で採った地物がメイン。

月山頂上小屋

発祥時期は不明。昭和21年に芳賀家が引き継ぎ、竹志さんが2代目。現在は家族4人で経営しています。「月山の天候は平地からではわかりにくいので心配な場合は連絡をください」と芳賀さん。

☎090-8781-7731 個室予約 団体懇200円、素泊まり5880円、1泊2食付8820円 6月下旬～9月下旬 ※HP「月山頂上小屋」で検索





国立公園・月山は、豊かな自然に包まれた天然記念物の山であり、高山植物やトレッキング、夏スキーなどで人気の山です。そして忘れてはならないのが、月山を主峰とする出羽三山が、長い歴史をもつ信仰の山であること。月山神社の大江忠彦さんに、月山信仰についてお聞きしました。

写真提供＝羽黒町観光協会



自然への畏怖と感謝の気持ち が月山信仰の源です。

大江忠彦さん | 出羽三山神社禊宜・月山神社本宮奉行 |



おおえ・ただひこ
昭和35年、山形県鶴岡市羽黒町生まれ。実家は手向の大江坊。国学院大学で神職の資格取得後、埼玉県大宮市の氷川神社に奉職。平成3年、出羽三山神社に奉職。14年から夏場は月山頂上の本宮神社勤務となり、20年に月山神社本宮奉行となる。

撮影＝Cradle編集部

Special Edition

月山、夏嶺をゆく



——月山の山頂には月山神社本宮があり、「月読命」が祀られます。シーズン中たくさんの方々が訪れます。そして、その方々によって現在の月山（出羽三山）は長い間守られて参りました。（中略）今、月山に登ることができるとは、その方々のおかげなのです——

月山仏生池小屋HPに載せられている言葉です。羽黒の大鳥居を入りに、長い参道を通って出羽神社、月山神社、湯殿山神社へ。登山道は参道であり、出羽三山すべてが山岳信仰、修験道の神域な

のです。「かつて出羽三山に入るには、麓の神社にお参りして、装束に着がえて身を清め、礼儀をつくさないと入れませんでした。『行者返し』で修行をしておいてこいと返された逸話も残っている。『行者返し』と語るのは、月山神社の大江忠彦さん。大江さんは10年前から月山の頂上で祭儀を司っていました。「夏を山の上で過ごしていると、風はすごいし雨は冷たいし、雷は横に走るし、とにかく自然に逆らっては生きてい

■影の周りに光輪ができるブロッケン現象。昔は阿弥陀如来の出現と崇められました。■弥陀ヶ原の御田原参籠所にある兎の銅像。■先達である羽黒山伏から月山神社へ導かれる参拝者たち。羽黒山伏は毎年冬、自身の宿坊の担当地域（檀那場・霞場）に神札を配り、翌夏の三山詣の参加を募ります。夏になると参拝者は迎えにきたバスに乗って宿坊に行き、白装束に着がえて身を清め、一夜を宿坊で過ごしながら羽黒山・月山・湯殿山を参拝して帰路につきます。■頂上から見る朝日連峰。雄大で神秘的な景色が広がります。

月山神社 要崇峻天皇の御子・蜂子皇子が1400年前に開山。延喜式による名神大社で東北唯一の官幣大社。御祭神は月読命で神仏習合時代の本地仏は阿弥陀如来。 圖7月1日～9月15日頃 図祓料500円、祈禱3000円～ 圖090-8921-9151 ※HP「出羽三山神社」で検索

けないと深く実感します。でも山は水や山菜など恵みも与えてくれる。昔の人は自然の中で生きていたから、それがわかっていました。月山信仰の根底には人々の自然への畏怖と感謝があるのです。

庄内地方には、亡くなった人の霊が月山に登って祖霊になるという「モリの山」信仰や、山の神が春に降りてきて田の神になるという農民信仰もあります。今ある生を山にいる先祖や神さまに感謝し

月山の上にいると、自然に逆らうては生きていけないこと、一人では生きられないことを強く感じます。自分に奢らず、生かされている命に感謝すること。それが信仰の心です。

つつ、自然を畏れ、敬ってきたのでしよう。「日本の場合、高い山の多くにこうした信仰があります。月山・羽黒山・湯殿山は三つの山が連なっている分、民族的、宗教的にさまざまな意味が集合しています。だからこそ遠く関東からも出羽三山詣に来るし、今も各地でその信仰が親から子、子から孫へと受け継がれているのです」。

1400年前に蜂子皇子によって開山され、修験道の霊場として発展した出羽三山。江戸時代には東三十三カ国、今という東北・関東という広いエリアが信仰圏となり、多くの人が出羽三山まで行脚しました。今も夏になると、各地の信者が羽黒山伏に導かれ、それぞれの祈りを胸に、白い長蛇の列を連ねて三山詣に向かいます。

今年には月山神が現われたことに由来する卯歳御縁年です。そして、日本に未曾有の災害が起こった年。月山神社を目指して天空を仰ぎながら、自然の力、人とのつながりを見つめ直す心の旅が、求められているのかもしれない。



関川しな織の 新アイテムたち

静岡の葛布・沖縄の芭蕉布とともに「日本三大古代織」に数えられている鶴岡市関川のしな織になにやら今までとは違ったニュアンスの商品がぞくぞく誕生しているようです。その一部をご紹介します

ざっくりとした風合いが涼しげなバッグと帽子。汗や水に強く、軽くて通気性がよい、まさに夏にピッタリな、「関川しな織」の新グッズだ。

古来日本には、シナノキの皮を糸にして織った布を、日用品に加工して使う生活形態が多くあった。その後、時代の変遷に伴い各地のしな織文化が消えるなか、大昔から変わらず受け継がれていた関川では、しな織を村おこしの主役にしようと、集落の全家庭が加盟する「関川しな織協同組合」を発足。以来、各家庭がシナノキの育成から糸づくりまでを担当し、組合が商品加工と販売を担当するという集落あげでの協同作業を続けてきた。

この度のアイテムは、木の繊維を織布用の糸にする工程の途中段階で「編む」あるいは「縄ない」して作るもの。その分シナノキの素材感が引き立ち、商品の幅もグンと増えた。「編み製品も縄ない製品も、作っているのは地域内外のお父さんやおばあちゃんですが、皆さん糸の可能性を上手に引き出しながら楽しんで作ってくれます」と話すのは、組合が平成7年に始めた「しな織研修生制度」の修了生である五十嵐千江さん。一旦東京に戻ったものの数年前に関川へお嫁入りして組合の仕事に携わっている。しな織が「幻の織物」と言われつつこの地で作られている要因には、彼女たちのように、しな織や関川という地に魅了されて外からやってくる存在もあるようだ。

あらゆる手仕事が消えゆく日本で、古代からの生活文化が変わらず息づく山あいの小さな村。関川のしな織は、伝統文化を愛する人、村そのものを愛する人たちによって守られ、生かされている。



しな織は、同じ山を挟んだ山形県鶴岡市関川と新潟県村上市山北に残る古代布で、関川は昭和60年に「関川しな織協同組合」を発足、伝統技術の継続・発展に励んでいる。平成17年に国の伝統的工芸品指定を受けた。「一つひとつ手作りなのでオーダーメイドもできますし、使うほどに風合いが出て愛着が増すので、末永くご愛用できますよ」と五十嵐さん。

関川しな織センター ☎0235-47-2502



庄内写真季行 4 飛鳥

庄内の海には季節がある。
いつも尽きない出会いをくれる。

対馬暖流に洗われ、東北の海
とは思えないほど透明度が高い
飛鳥は、ダイバーに人気のスポッ
ト。2004年には本州北限と
思われるジョーフィッシュのコ
ロニー発見に沸いた。

庄内の海には四季がある。決
して派手ではないけれど、同じ
季節、同じポイントに、いつも
のようにひょっこり現れる生き
物たちは、毎日潜っていても尽
きない出会いをくれる。